



カノンの会 15周年記念
村治佳織 ギター・リサイタル

Kaori Muraji Guitar Recital
2007.11.27(火) 19:15
南城市文化センターシュガーホール

主催 シュガーホールにエールを送るカノンの会 後援 南城市 沖縄タイムス社 琉球新報社



プログラム

J.S. バッハ

Johann Sebastian Bach

リュート組曲第1番 ホ短調 BWV.996

Lute Suite No.1 in E minor BWV.996

無伴奏パルティータ第2番 ニ短調 BWV.1004 より シャコンヌ

Chaconne from Partita No.2 in D minor BWV.1004

武満徹編曲

Arr. T. Takemitsu

「ギターのための12の歌」より ロンドンデリーの歌

Londonderry Air from "12 Songs for Guitar"

ヨーク

Andrew York

サンバースト

Sunburst

* * * * *

デ・ラ・マーサ

Eduardo Sáinz de la Maza

暁の鐘

Campanas del alba

モレーノ=トロバ

Federico Moreno Torroba

ラ・マンチャの歌

Aires de la Mancha

I ヘリンゴンザ Jeringonza

II もう冬がやってくる Ya Llega el invierno

III 小唄 Coplilla

IV 牧人 La pastora

V ラ・セギディージャ La Seguidilla

タレガ

Francisco Tárrega

アルハン布拉の想い出

Recuerdos de la Alhambra

ロドリーゴ

Joaquín Rodrigo

フェネラリーフェのほとり

Junto al Generalife

ファリヤ

Manuel de Falla

粉屋の踊り

Danza del molinero



*曲目は変更になる場合がございます。予めご了承くださいますようお願い申し上げます。



プログラムノート

バッハ:リュート組曲第1番

ヨハン・セバスチャン・バッハ(1685 -1750)は<リュート組曲>と呼ばれるものを4篇遺している。第1番は短調の組曲は、厳密にはリュートではなく、バッハが作らせ、所持していたラウテンヴェルクという楽器で、リュートに似た音を出すようなガット弦を張ったチェンバロのために書かれたと言われている。全体は、1. プレリュート、2. アルマンド、3. クラント、4. サラバンド、5. ブーレ、6. ジーグで構成されている。

バッハ:シャコンヌ

<無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番 BWV.1004>の第5楽章。ヴァイオリンにとって至高の作品とされるこの曲を、スペイン・ギター界の巨匠アンドレス・セゴビア(1893-1987)が、ギター音楽の芸術性を広く世に知らしめるために編曲・演奏して以来、ギターの重要なレパートリーとなっている。

武満徹(編曲):ギターのための12の歌より ロンドンデリーの歌

日本を代表する作曲家武満徹(1930-1996)は、1977年にギタリスト莊村清志のアルバム収録用に、誰もが知っているポピュラーソングのスタンダードを集め、ギターのために編曲した。<ロンドンデリーの歌>は、北アイルランドの港町、ロンドンデリーで歌い継がれてきた民謡。

ヨーク:サンバースト

ロサンゼルス・ギター・クワル텟のメンバーとして知られるアンドリュー・ヨークの作品。雲間から漏れる強烈な太陽の光(Sunburst)を表現したこの曲は、効果的にシンコペーションが用いられ、躍動感に溢れている。ジョン・ウィリアムスが録音をしたことから、広く知られるようになった。

デ・ラ・マーサ:暁の鐘

エドゥアルド・サインス・デ・ラ・マーサ(1903 -1982)が、実兄であり、高名なギタリストのレヒーノ・サインス・デ・ラ・マーサに捧げた曲。遠くから聞こえる静かな鐘の音が、一日の始まりを告げ、人々の日々の営みが始まる朝の情景が、幻想的なトレモロによって美しく描き出されている。兄レヒーノは、ギターの名曲中の名曲「アランフェス協奏曲」を初演したギタリストとして知られている。

モレーノ=トロバ:ラ・マンチャの歌

スペインが生んだ最も有名な小説の登場人物、ドン・キホーテの故郷、ラ・マンチャの音楽をもとに作られた、5曲の小品からなる組曲。5つの曲は、リズミカルな舞曲調の曲<ヘリンコンザ>、<小唄>、<ラ・セギディージャ>と、即興的な性格を持った繊細で物悲しい雰囲気の曲<もう冬がやってくる>、<牧人>とに分けられる。<ヘリンゴンザ>とは、「わけのわからない言葉」という意味のスペイン語。<セギディージャ>とはアンダルシア地方で踊られるダンスのこと。

タレガ:アルハンブラの想い出

ギター音楽の質的向上に生涯を捧げたスペインの作曲家、フランシスコ・タレガ(1852 -1909)。この曲はタレガがアルハンブラ宮殿を訪問した際の想い出の曲といわれている。壯麗なアルハンブラ宮殿は、イベリア半島がムスリムの勢力圏内にあった時代に建てられた栄華のシンボルともいべき建物。トレモロ奏法が特に有名な、ギター音楽の中でも屈指の名曲。

ロドリーゴ:フェネラリーフェのほとり

“フェネラリーフェ”とは、前出のアルハンブラ宮殿から谷を挟んで向かい側に位置する夏の離宮。糸杉の並木や噴水などで飾られた庭園の美しさが、異国情緒ただようメロディで表現されている。ホアキン・ロドリーゴ(1901-1999)は、ギタリストにとって最重要レパートリーといえる<アランフェス協奏曲>の作者として知られ、20世紀のスペインを代表する作曲家である。

ファリヤ:粉屋の踊り

近代スペイン民族主義楽派の大家マニュエル・デ・ファリヤ(1876 -1946)が、ディアギレフ・ロシア・バレエ団からの依頼により作曲した『三角帽子』(1919年ロンドンで初演)。その第2幕、村人達の祭りの場面で、主人公のきつぶの良い粉屋(水車小屋の若主人)が、粋に、威勢よく、この舞曲を踊る。もとはオーケストラ曲だが、ギター用に編曲されて、愛奏されている。

沖縄のみなさまへ



写真：小林みのる

本日はご来場いただきありがとうございます。

沖縄での公演は今回が3度目となります。今日の日をとても楽しみにしておりました。これまでの演奏活動を通して47都道府県全てを訪れる機会をいただきました。それぞれ印象深いところばかりですが沖縄は何度でも訪れたい場所の一つです。

今年の夏はレコーディングとその準備でスペインに2カ月半、滞在しておりました。8月末に帰国してからはコンサート活動と新しいアルバムのプロモーション活動やラジオ番組のナビゲーターと大忙しの日々を送っています。まだまだ忙しい日々は続きますが、太陽の恵たっぷりの大地と青い海に囲まれた沖縄で沢山深呼吸をしてエネルギーをいただこうと思っています。

約3年ぶりの沖縄公演は、前半はバッハの作品を中心にそして後半はスペインを題材にした小品の数々を演奏いたします。

ここシュガーホールで、しばしののうの音色をお楽しみいただけましたら幸いです。

2007年11月27日

村治佳織

BIOGRAPHY

東京都出身。福田進一に師事。89年、ジュニア・ギターコンテストにおいて最優秀賞を受賞。91年、学生ギターコンクールにおいて、全部門通じての最優秀賞を受賞。92年プローウェル国際ギターコンクール（東京開催）及び東京国際ギターコンクール優勝。93年、津田ホールにてデビューリサイタルを行う。続いてデビューCD「エスプレッシーヴォ」をリリース。95年、第5回出光音楽賞を最年少で受賞。96年、村松賞受賞。同年5月、イタリア国立放送交響楽団の定期演奏会に招かれ、本拠地トリノにおいて共演、ヨーロッパデビューを飾る。97年より、パリのエコール・ノルマルに留学、アルベルト・ポンセに師事。99年、エコール・ノルマル卒業と同時に帰国。以後積極的なソロ活動を行う。

03年11月には、英国名門クラシックレーベルDECCA（デッカ）と日本人としては初のインターナショナル長期専属契約を結び、第1弾「トランスフォーメーション」は第19回日本ゴールドディスク大賞クラシック・アルバム・オブ・ザ・イヤー<洋楽>を受賞。その後も第2弾「リュミエール」、第3弾「ライア&ソネット」のほか、06年にDVD「コスタリカ」が発売され、07年4月にはミニ・アルバム&DVD「アマンダ」を、10月にはフルアルバムとしてDECCA第4弾となる「Viva! Rodrigo」をリリース。

06年1月から、J-WAVE (FM) 「MITSUBISHI JISHO CLASSY CAFÉ」で番組パーソナリティを務め、07年1月からミキモトのイメージキャラクターとして起用されるなど、幅広い分野で活躍している現在最も注目されているギタリストである。

村治佳織 OFFICIAL HOME PAGE <http://www.musicachiara.com/dulcinea/>